

■「100万人のキャンドルナイト 2007冬至 in UMEDA」に学生らが参加しました。

大阪市 阪急梅田駅周辺 2007.12.3(月)・5(水)

昨年の12月3日と5日に大阪梅田の茶屋町と西梅田で、「100万人のキャンドルナイトinUMEDA」が開催されました。

このキャンドルナイトイベントは日本全国的に知られ、夏至と冬至の時期に合わせて全国各地で開催されています。その中、大阪梅田では「100万人のキャンドルナイトinUMEDA」として行われましたが、そこでは美術学科教授の嶋本昭三先生の指導のもと、美術学科の在学生や卒業生、他コースの学生、梅田キャンパスのエクステンションや大学院から多くの参加がありました。

造形大生らしい手作りのアーティスティックなキャンドルが、大阪の街を幻想的に照らし出しました。



独創的な造形の手作りキャンドルが大阪の街を演出しました。

■平成19年度 大学院修士課程修了制作展・論文公聴会のお知らせ



●会場 宝塚造形芸術大学 宝塚キャンパス
マルチメディアタワー1階

●会期 修了制作展 2008年2月7日(木)～13日(水)
論文公聴会 2008年2月9日(土)AM 10:00～



昨年度の公聴会の様子

本学宝塚キャンパスマルチメディアタワーに於いて、大学院修士課程の修了制作作品の展示及び修士論文発表の公聴会が行われます。

美術学科より 展覧会のお知らせです。

大阪市立美術館

■宝塚造形芸術大学展■

(美術学科 卒業制作展・春の造形展)

美術学科の全てのコース(美術史・美術理論/洋画/日本画/彫刻)および大学院による、卒業制作展と春の造形展の合同展覧会です。

会場:大阪市立美術館 地下展覧会場

2008年2月26日(火)～3月2日(日)

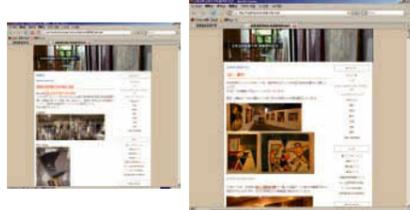
【開催時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)】

駐車場がございませんので、ご来場の際には公共交通機関をご利用ください。案内状をお持ちの方は、天王寺公園入口でお示し下さい。

■美術学科ブログが人気です！

本学美術学科のことをより身近に感じて頂けるように開設した当ブログのアクセス数が、開設から半年足らずで18000を大きく超えました(1月15日調べ)。北は北海道、南は沖縄まで、日本全国幅広いエリアからご覧頂いているようです。ご愛読ありがとうございます。今後も美術学科でのイベントや展覧会情報、在学生・卒業生・教員の活動などを随時掲載していきますので、あーと通信も含め、どうぞよろしくお願いいたします。

ブログURL <http://tuad-bijutu.cocolog-nifty.com>



■第39回日展

東京展 国立新美術館 2007.11.2(金)～12.9(日)
京都展 京都市美術館 2007.12.15(土)～2008.1.14(月)
大阪展 大阪市立美術館 2008.2.23(土)～3.23(日)

■大学院生 田中達也さんが入選しました。



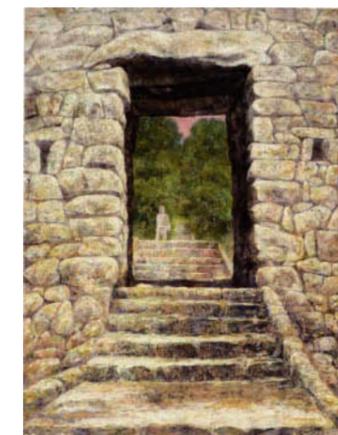
「鐵」田中達也
(大学院修士課程)



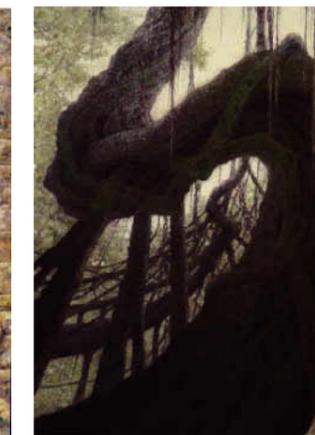
「氣」福本達雄(本学社会人大学院講師・日展参与)



「薄陽」曲子明良(日本画教授・日展会員)



「城址」西敏彦(日本画講師・日展会友)



「うわく」山田毅(日本画講師・日展会友)

第39回日展において、大学院修士課程1年で日本画を専攻している田中達也さんが初入選を果たしました。この度は文展から数えて100年になる記念の年で、六本木の国立新美術館へ展覧会場を移し、開催されました。



授賞式でコメントを述べる田中達也さん

■第6回大王大賞展

志摩市大王公民館 2007.12.18(火)～25(火)

■洋画3年 吉村沙耶香さんが奨励賞を受賞



■奨励賞
「夏の日差し」
吉村沙耶香(洋画3年)

■第53回豊中市展

豊中市 豊中市市民会館 2007.11.3(土)～7(水)

■彫刻コース在学生と美術学科卒業生が受賞しました！



■市長賞「しんめ」西村大喜(彫刻3年)



■協賛賞「色とかたちのたわむれ」根川菊子(卒業生)

■第42回伊丹市展 伊丹市 伊丹市立中央公民館 2007.10.28(日)~11.3(土)

■日本画コース在学学生や大学院生が受賞・入選！

【教育長賞】

【入選】

【市長賞】



「窓から見える風景」 鈴木一美(大学院修士課程)



「その先に見えるもの」 今邨阿佐美(日本画2年)



「梅雨に咲く」 城戸啓吾(日本画2年)

■第31回国画会彫刻部の試み展

東京都美術館 2007.12.15(土)~22(土)

この展覧会では、国画会彫刻部の新しい試みとして、他団体や作家との交流作品展示、トークイン、視覚特別支援学校ワークショップと作品展示といった特別企画で行われました。



「阿修羅復活」 西村公泉(彫刻コース教授)



「君の笑顔を守るため」 高田治(大学院修士課程)



「動衝」 合田のぞむ(助教)



「オレフロンティア」 難波爆(卒業生)



「群れの中で」 松尾勇祐(卒業生)



「小さな大地に」 辰己忠良(卒業生)

■第11回国画会京滋作家展

京都府立文化芸術会館 2007.11.27(火)~12.2(日)

この展覧会は、京都府と滋賀県に在住する国画会の会員・準会員と、過去に関西国展に出品した一般出品者によるグループ展です。彫刻コース教授や助教、卒業生2名も参加しました。



「月光雪のアナバーナサチ」 西村公泉(彫刻コース教授)



写真左: 作品中央の穴の中で鎮座する鬼の像



「迷作劇場」 難波爆(卒業生)



「SOW」 辰己忠良(卒業生)



会場風景



■第4回 REAL展

兵庫県立美術館 原田の森ギャラリー 2007.12.4(火)~9(日)

今で第4回目となるグループ美術展「REAL展」が神戸市の美術館ギャラリーで開催されました。



REAL展は、“美術学科在学学生やOBの枠を越えた創作へのリアルな視点”をキーワードにした、学生有志で行われるグループ美術作品展です。今年で4回目を迎え、力作が勢ぞろいしました。今回のREAL展では、洋画コース、彫刻コースの在学学生、大学院生、卒業生合わせて31名が参加し、作品を展示しました。

■文化財修復現場からの報告 宝塚市中山寺 2007.12.13(木)

昨年冬に文化財修復の現場作業に参加した美術史・美術理論コース3年の下園真容さんの報告です。



今回の現場は兵庫県にある中山寺の本堂内部天井。その「かき落とし作業」を行いました。内部は汚れがひどく、かき落とす際に緑青がかたくなかなか落ちないので水分を含ませたペーパーをはり付け、ふやかしてからかき落とすという方法で作業を進めました。夏の現場でかき落とししたのは粉状でしたが、今回は泥状。仕事の内容は同じでも、現場に適した方法を考える必要はないといけません。そのやり方は様々。



お寺の内部(天井)なんて滅多に上れる場所ではないですし、新たに文化財修復の現場に関わった事で、また一つ貴重な体験が増えました。(文:下園真容)

<峯森悠さんのコメント>

「他人に自分の調べたことを発表するのは、発表する内容を理解していないと全然伝わらないし、伝える方法も不慣れだから少し苦痛に感じてしまう。今回発表してみて、まだまだ頭に入れておかないといけない事がたくさんあったし、疑問も生まれた。話した内容が上手く伝わったかどうかは分からないが、パソコンで事前にシミュレーションをしていたので、すごく落ち着いて出来て、パニックにならないう事無く終わらせて良かった。また機会があれば発表したい。」

■彫刻コース1年 矢田部修武さんの作品が公共の場所で設置されました。

川西市 JR川西池田駅前 2007.12~

株式会社計測器センター篠木喜代司社長の発案を本学芸術情報科学志水教授の仲介で、一昨年11月から始まった同社総合技術研究所前庭に設置される彫刻作品の展示替えをしました。一昨年は彫刻コース現2年生の坪田さんの「GORON」を1年間設置して頂きましたが、続いて1年生石彫課題最優秀作「核」を今回設置しました。

作者の矢田部修武君は、村野工業高校から指定校推薦で入学した好青年です。高校では3年間「ハトミントン部」で厳しい鍛錬を積み重ね、県大会ベスト8の成績を残しました。当然、高校時代は美術の学習経験は皆無に等しく、本学入学後初めて本格的な彫刻制作に取組んでいます。では、何故彫刻コースを選んだのだろうと聞きながら、『元々美術が好きで色々な展覧会を見るにつけ、平面絵画よりも、ハトミントンの練習を通じて把握した空間性に捉らわれ、どうしても彫刻を学習したいと考えていたところ、担任の先生から本学を薦められて受験しました』と言っています。毎日が新鮮な驚きの連続で、彫刻制作が楽しくたまらない様子で目下は木彫課題と取り組んでいます。尼崎市武庫之荘の自宅から1時間を掛けて自転車通学していますが、毎朝9時には大学に現れ、夜7時過ぎまで制作に打ち込む日々を送っています。

作品題名は『核』。石彫課題作品です。課題テーマは『包む』でしたが、彼は地球の核である mantle をイメージして制作しました。設置された作品は今年11月まで展示されます。場所はJR川西池田駅ロータリー入口近くの道路沿いですから、ぜひ現物を見てあげてください。



制作に取り組む矢田部さん

■美術史美術理論コースのコロキウム(研究会)の報告

宝塚造形芸術大学 宝塚キャンパス 2007.12.20(木)



本学1503教室で昨年末、放課後に当コースの恒例となっているコロキウムが開催されました。今回の研究発表者は、3年生の峯森悠さんと、同じく3年生の石動伊緒奈さんでした。峯森さんは17世紀バロックの画家ジョルジュ・ド・ラトゥールについて熱く語り、石動さんはラファエル前派のジョン・エヴァレット・ミレイの代表作『オフィーリア』に関して、当時の女性像について社会的な観点から報告されました。ここに、当夜の様子とお二人の感想を掲載します。



ジョルジュ・ド・ラトゥール作『ダイヤのエースを持ついかさま師』ルーブル美術館収蔵



ジョン・エヴァレット・ミレイ作『オフィーリア』テートギャラリー収蔵

<石動伊緒奈さんのコメント>

「ミレイの『オフィーリア』は、彼女が受けた拒絶に伴う精神異常が彼女を社会から隔離してしまったことを強調して描かれている。この作品には、19世紀に生きた未婚の女性が将来に展望を持つことができない苦境に置かれていたことに対する関心が反映されている。」

■(株)計測器センター社から感謝状が贈られました。

昨年の12月13日、(株)計測器センター前庭設置の石彫作品『核』に対し、同社社長篠木喜代司さんから作者矢田部泰輔君に感謝状が贈られました。副賞として腕時計も頂きましたが、次点(銀賞受賞者)稲田裕明君にも記念賞として腕時計が贈られ、これが一昨年度3名(現2年、坪田・福山・加世田)計5名の腕時計組が誕生しました。学外から顕彰されることで大いに自信を持ち、今後の学業に動んでください。

(文:彫刻コース教授 市川悦也)

